

2012年 町勢要覧



群馬県 下仁田町

発刊のごあいさつ



町長 金井 康行

下仁田町は、群馬県の西南部に位置し、西側の長野県との県境域は妙義荒船佐久高原国定公園に指定され、豊かな自然と清流に恵まれた町です。

町の東側には上信越自動車道下仁田インターチェンジがあり、首都圏を始め、東北、信越東海への各方面へ高速道路で結ばれていて、交通条件にも恵まれています。

下仁田町は古くから「こんにゃく」と「下仁田葱」が特産品として広く知られ、こんにゃくは、健康食品として、下仁田葱は冬の鍋料理に欠かせない逸品とし多くの皆様にご愛用いただいております。

特に、下仁田葱は、11月23日を「下仁田葱の日」として定め、江戸期から栽培されてきた伝統の風味を守り、下仁田ブランドとして、より一層の普及に努めて参ります。

また、2011年9月には下仁田町特有の地形や地層が、大地の歴史や人との関わりを知ることが出来る自然公園「下仁田ジオパーク」として日本ジオパーク委員会の認定を受けました。

町内にあるジオサイトでは、大地の変動を知り、それによって形成された景観の美しさを体験していただけます。

この他、世界遺産候補である「富岡製糸場と絹産業遺産群」のうちの一つである「荒船風穴」（自然の冷気を利用した貯蔵庫）があり、大地の自然が作り出した貴重な資産が数多く残されています。

今後、新たなる活性化の一步として、「下仁田ジオパーク」の名を広め、下仁田町を訪れるお客様をおもてなしするよう環境の整備を図っていく所存であります。

多くの方々にお越しいただくよう心よりお待ち申し上げます。

下仁田町長 金井 康行

下仁田ジオパーク

～多様な大地の変動から古代人の足音まで～

2011年9月、日本ジオパーク委員会（JGC）理事会において日本ジオパーク認定され、「下仁田ジオパーク」が誕生しました。

下仁田町は、日本の地質100選にも選ばれている『跡倉クリッペ』をはじめ、日本列島が現在の形になるまでに起こってきた大地の活動の証拠が集中して見られる地域で、日本列島形成過程の秘密を握る場所とも言われています。

また、様々な地殻変動を受けたこの大地に住む人々は、特異な地質が作り出す地形・風土を利用し、天然の冷風を利用し、生糸の増産の下支えをした荒船風穴を利用し蚕種貯蔵や委託販売養蚕業や石灰の採掘などの独特な産業で生計をたててきました。



荒船風穴

下仁田町の特産物下仁田ネギもこのジオパークの独特の土壌、気候などによって、生み出され、この地域以外では出せないといわれる旨みを持ちます。

以上のように下仁田町では、壮大な大地のストーリーとその土地の人々のつながりを楽しみながら、そして大地から生まれてきた食材を味わいながら、楽しめる公園「ジオパーク」を推進しています。

2010年（平成22年）4月からは、廃校になった青倉小学校を下仁田町自然史館として利用し、ジオパーク推進の拠点とするなど、受け入れ体制も整備しています。

今まで下仁田町は、研究者や関係者の間では「興味深い、面白い」と言われていましたが、今後は、その面白さを一般の人にも伝え、町全体で盛り上げて世界ジオパーク登録に向けて活動を続けるとともに、地域間連携の普及とPR活動も続けていきたいと考えています。

なお、東日本大震災以降、ジオパークの役割として防災・減災についての教育や調査などがクローズアップされてきました。過去の震災や水害の被害状況の把握などを行い、今後の防災活動につなげていきたいと考えています。

～ジオパークで再発見・ふるさとの魅力～

下仁田の水と緑を歩こう①

～荒船山～

起伏に富む上信国境の山並みの中に、独特の姿を浮かべる荒船山。悠然としたその山容は、大海に乗り出す船のよう。



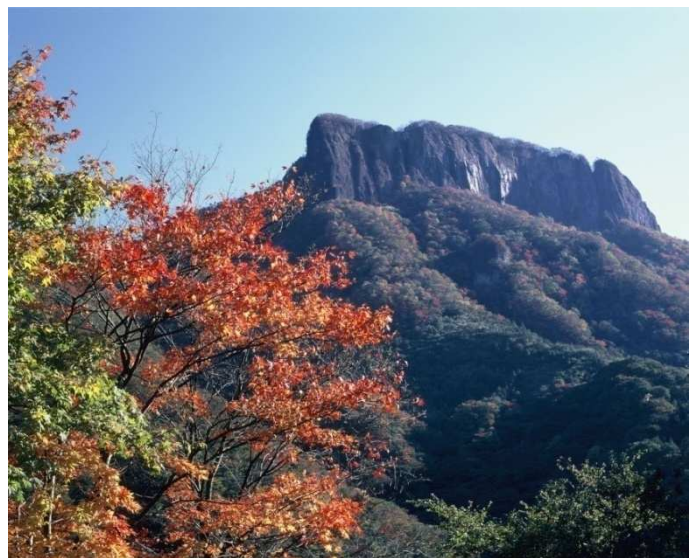
荒船山

荒船山は、下仁田町の西部、長野県境にあり、南北に約2キロメートル、東西約400メートルの巨大な溶岩台地です。平坦な頂上部が続く山容が、荒波を蹴って進む船を思わせることからその名がつけられたと言われ、一昔前までは、雨乞いの山として下仁田の人々の信仰を集めていました。

登山ルートはバラエティーに富み、比較的手軽に登れることから、春から秋にかけて多くの登山者が訪れます。一般的な登山ルートとして人気があるのが、内山峠から鱸岩を目指すコース。荒船山北端にそびえる鱸岩は、高さ約200メートルの岩壁が垂直に切れ落ちていて、ここから望む景色は絶景。優美な浅間山や急峻な妙義山が眼前に迫り、また遠く北アルプスの山並みも望めます。

頂上一帯は、笹原に覆われていて、最高地点の経塚山（標高1422メートル）へと平坦な道が続きます。経塚山には祠があり、その昔、弘法大使がここに経塚を作ったという伝説が残っています。

荒々しい岩壁と優美な草原、動と静の魅力にあふれる荒船山は、西上州の名山として愛されています。



秋の荒船山

下仁田の水と緑を歩こう②

～中之嶽～

険しい岩肌と柔らかな木々の調和。自然が作り上げた壮大な造形美。奇岩の連なりが、息をのむ迫力です。



妙義山と桜

九州の耶馬溪、四国の寒霞溪とともに、日本三大奇勝として有名な妙義山。その峰々が作り出す四季折々の美しい表情に、人々は魅了されます。妙義山は、白雲山、金洞山、金鶏山、相馬岳、御岳、丁須の頭などをあわせた総称で、南側の表妙義と北側の裏妙義に分かれています。

特に下仁田側から眺望できる金洞山は、別名、中之嶽とも呼ばれ、昔から下仁田町民に親しまれてきました。奇岩がいたるところにみられる妙義山の中でも、この中之嶽の景色は圧巻です。中腹をめぐる第一石門から第四石門をはじめ、ロウソク岩、大砲岩、筆頭岩、ユルギ岩、こむそう虚無僧岩といったユニークな名前をつけられた特徴ある岩石群は、日本屈指の山岳美としてたたえられています。

これらの石門、石群を巡るコースは、中之嶽神社から出発します。中之嶽神社は古くから妙義山信仰の拠点となった由緒ある神社で、日本武尊と大国主命がまつられています。

特に、第四石門からの眺めは素晴らしく、一带の風景を一日見ても飽きないことから「日暮しの景」と呼ばれるほどです。春には、麓にある「さくらの里」に植えられた5千本もの桜が、春霞のように辺りを覆いつくします。また、秋には紅葉狩りに訪れる人でにぎわいます。



大砲岩と紅葉

下仁田の水と緑を歩こう③

～神津牧場～

広大な空を気ままな旅人のように流れる雲。
大空の下には、のんびりと草を食む牛の群れ…。
おいしい空気がいっぱい。



神津牧場 全景



ジャージー牛の行列

上信県境の物見山東斜面に広がる神津牧場は、明治 20 年に開設された、日本で最初の洋式牧場。標高 1000 メートル、敷地約 350 ヘクタールの広大な敷地に、ジャージー牛をはじめヤギやポニーが放牧され、家族連れで楽しめるレジャースポットです。

平地より春が遅い牧場では、5 月下旬は最も彩り鮮やかな季節。桜をはじめとした花々が咲き、毎年第三日曜には花祭りも開かれます。花の中を牛の群れがゆっくりと過ぎていく様子は、いかにも牧歌的。動物との触れあいも楽しめます。また、オオルリ、カッコウ、リスやキツネなどの野生動物も多く、牧舎裏手の丘からは、浅間山、妙義山をはじめ周辺の山々を一望することができます。

周辺を散策して心地よい汗をかいたら、ジャージー牛の搾りたての牛乳やソフトクリームでリフレッシュ。茶色の毛並みのジャージー種は、ホルスタイン種より脂肪含有量の高い乳が得られ、おいしさは満点。

親水護岸や宿泊施設も整えられ、研修、レジャーと町内外の人々に幅広く活用されています。

祭り 文化財

～守り続けるってことがたいせつなんだよ～

熱い想いは、今も

人々が心を合わせ、町中が熱気に包まれる祭りの日。古い歴史を誇る下仁田には、季節ごとに伝統のある祭りが残っています。

下仁田名産の蒟蒻を祭るのが冬の蒟蒻大黒天祭です。また、夏の風物詩、下仁田夏祭りには、御輿が練り歩き花火も打ち上げられて、街中が熱気に包まれます。



諏訪神社例大祭 山車のせり合い

一方、秋の諏訪神社例大祭は、ちょうちんで飾られたきらびやかな山車が主役。笛や太鼓のおはやしに合わせ、何台もの山車が繰り出します。

時代は移り変わっても、人々の祭りに寄せる熱い思いは変わりません。



明治期の製鉄所

歴史の証を、時代へ。

下仁田町の歴史をたどると、旧石器時代から人々が暮らしを営んでいたことが分かります。上信越自動車道の建設に伴って発掘された下鎌田遺跡や杣瀬遺跡をはじめ、鎬川流域には、原始・古代の遺構がたくさん残されています。

中世の遺物としては、板碑など数多くの石造物が発見されています。また、戦国期の遺構として、鷹の巣城、西牧城など十四の城跡も見られます。

近世には、鎬川筋を中山道の脇往還が通り西牧関所が置かれました。信州と上州の交易地として下仁田には市が開かれ、大いににぎわいました。幕末に起こった下仁田戦争は、下仁田を主戦場に水戸浪士（天狗党）と高崎藩が戦った事件で、弾痕の残る土蔵や犠牲者の墓などが、往時の惨状を今に伝えます。

明治になると、官営中小坂鉄山が日本初の蒸気機関による送風の木炭高炉を操業し、戦後閉山されるまで、良質の鉄を生産し続けました。

このように悠久の歴史を誇る下仁田町には、人々の暮らしや信仰に基づくさまざまな歴史の証が残されています。これらは、先人の遺産として大切に時代へ引き継いでいきたいものです。

特産物

～やっぱり 下仁田ブランドだね～

下仁田の美しい水と緑は、様々な特産品を生み出しました。中でも、下仁田ブランドとして全国的に名をとどろかせているのが、ねぎとこんにやく。下仁田といえば「ねぎとこんにやく」というほどイメージが定着しています。その他にも、しいたけ、かぶら材など、豊かな自然の恵みを受けた下仁田の物産は、どれも全国に誇れる逸品ぞろいです。

天下一の下仁田ねぎ

下仁田ねぎは、江戸期以来珍重されてきたこの地方の特産品です。日本のねぎの中でもっとも白根が太く大きいのが特徴で、煮ると短時間で軟らかくなり、そのとろけるような甘さと舌触りは絶品。煮物・鍋料理には欠かせない素材です。このねぎは、先人の努力によって、選抜や改良がおこなわれて、やわらかで、甘味が多く、風味のある独特の下仁田ねぎの誕生となりました。長野や前橋など他の地でも栽培試験が行われましたが、礫を多少含んだ粘質の下仁田の土壌でなくては特有の肉質に育たないと考えられています。まさに下仁田ならではのブランド品といえるでしょう。



下仁田ねぎ

歴史を誇る下仁田こんにやく

一方、こんにやくは、永正2年(1505)に、大日向村の茂木家で紀州から種芋を買入れ植え付けたと伝えられています。明治22年に下仁田の森沢川にこんにやく製粉用の水車が設置されて次第に生産量が増えていきました。明治26年以降、急速に栽培が拡大し、下仁田こんにやくとして全国の市場に出回るようになりました。水はけのよい傾斜地を利用して盛んに栽培され、現在でも町の農産物の中心となっています。



こんにやくいもと栽培風景

こんにやくはなべ物のほか、味噌田楽、おでん、刺身などに広く用いられる食材ですが、近年ではゼリーなど菓子類にも加工され、おいしくてダイエットにも効果があるということで、人気を博しています。

豊富な林産資源から、しいたけ・かぶら材



特産品 しいたけ

ねぎやこんにゃくほどではありませんが、下仁田はしいたけの産地としても有名です。豊富な林産資源と最適な環境を生かして生産される下仁田のしいたけは、肉厚で品質がよく、贈り物としてもたいへん喜ばれています。

町の8割以上を山や谷に囲まれた下仁田は、製材業も盛んです。「かぶら材」と銘打たれた下仁田産の杉材は、高品質の建築材料として知られ、住宅をはじめ多方面の建築物に広く使われています。

自慢の下仁田ブランド

その他にも下仁田の特産品としては、下仁田焼、どくだみワインなどがあります。また、神津牧場のジャージー牛の乳製品は、こくのある独特の風味で評判です。

大正時代からの伝統の味を受け継ぐ「下仁田カツ丼」も、近年では有名になってきました。揚げたカツを煮ないでサッと醤油だれにくぐらせた、さっぱりとした味が特徴です。町内の各店舗でカツ丼スタンプラリーも実施されているので、各店舗の自慢の味を食べくらべてみてはどうでしょうか。

下仁田名産「こんにゃく」を手作り体験できる「こんにゃく手作り体験道場」もあり、地元の講師による親切、丁寧な手ほどきにより、子供でも簡単に楽しい手作り体験ができます。作ったこんにゃくはその場で試食、お土産にお持ち帰りいただけますので、ぜひ一度体験なさってみてください。



こんにゃく手作り体験の様子

花

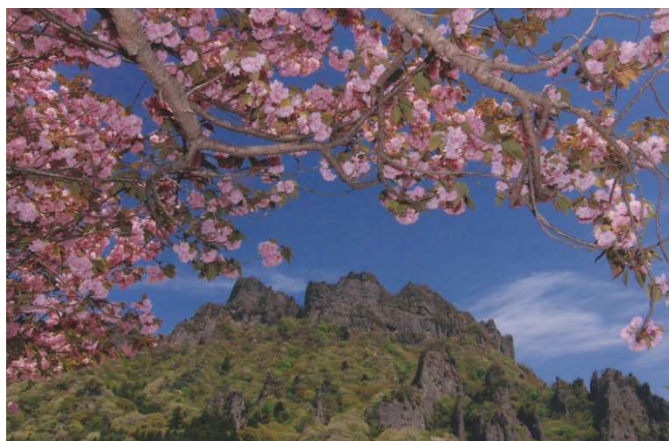
～豊かな自然が語りかけてきます～

さくらの里

妙義山の南面山麓に広がる斜面一帯を利用して園地になっているさくらの里。面積は、何と約47haで、園内には歩道や四阿が整備されているほか、野外ステージもあります。

園内に植えられた桜は、約45種5,000本。ソメイヨシノのほか、カンザン、フゲンゾウなどの八重桜も多いため咲く時期が異なり、4月中旬から5月上旬までの比較的長い期間桜を楽しむことができます。

雄大な妙義山と桜のコントラストは圧巻です。



ヤエザクラと妙義山

あじさい園



あじさい園と四ツ又山

下仁田町の東の玄関口に位置し、平成16年度から町が中心となり、あじさいの苗木の植栽に着手。それを引き継ぐ形で、地域有志を中心に「紫陽花を育てる会」が発足し、保育、管理を行っています。

あじさい約2万本、サルスベリ約1千本。本数では群馬県内1番、関東でも有数のあじさい園です。

下仁田ICからすぐそばで、園内遊歩道も整備され歩きやすくなっていますので、ぜひ一度ご来園ください。

姫街道もみじライン

下仁田町本宿から軽井沢町へと続く県道下仁田軽井沢線、通称姫街道もみじライン。10kmにわたる街道沿いが2,000本のもみじで真っ赤に染まり、県内外から多くの観光客が訪れます。

「もみじライン推進協議会」を中心に地域の方々の協力により、下草刈りやもみじの植栽等、より多くの方に楽しんでご覧になっていただけるよう整備が行われています。



もみじラインの紅葉

虻田福寿草の里



福寿草と紅梅

福寿草の里は下仁田町大字中小坂の虻田地区にあり、古くから福寿草の自生地でした。平成13年から虻田地区住民有志により株分けを行い、遊歩道や四阿を整備して大切に育ててきました。

開花する2月中旬から3月中旬にかけて、2ヘクタールの山里の斜面一面に、黄色い福寿草の花と1千本の紅梅が咲き誇ります。

下仁田町のあゆみ

昭和30年～平成24年

昭和30年代

5町村が合併して、下仁田町誕生

昭和30年	3.10	旧下仁田町、馬山村、西牧村、小坂村、青倉村が合併し、下仁田町が誕生
	4.15	町長改選（千野孫十郎）
昭和31年	11.3	下仁田小学校講堂落成
昭和32年	2.7	馬山中学校特別校舎起工
	2.17	上水道敷設工事計画実施進行
	3	し尿処理場完成（東町）
	11.8	鑓川用水の路線測量始まる
	11.10	土谷沢にバス運行
昭和33年	5	和美峠に自動車道開通
	11	常備消防発足
	11.15	下仁田酪農協同組合設立
昭和34年	6.6	小坂小学校北分校校舎落成
昭和35年	4	下仁田町商工会新発足
	8.7	土谷沢分校落成
	11.24	青倉中学校建設着工
昭和36年	3.25	町長改選（竹内欽之助）
	11.2	下仁田町観光協会設立
昭和37年	8.1	救急活動始まる
	11.22	町営ガス事業を町議会で議決
昭和38年	1.19	第一回生しいたけ共進会開催
	5.14	製茶工場の新設
	9	給食センター新築
	10.18	アサヒゴム工場誘致決定
昭和39年	4.4	ガス工事起工式
	4.30	町長改選（赤岩寿雄）
	9.1	下仁田町農協合併
	9.28	ガス供給開始

昭和40年代

小・中学校や公民館など、文化教育施設が充実する。

昭和40年	4.1	町章決定
	7.1	森林組合合併（下仁田・小坂・西牧）
	12.28	群蚕工場閉鎖
		林業構造改善事業第一次指定
昭和41年	6.11	下仁田町開発協会設立
	11.28	妙義荒船スーパー林道起工
昭和42年	4.1	下仁田電報電話局開局
	11.21	西牧青少年広場完成
昭和43年	9.10	町長改選（中村栄一）
	9.21	上水道第二次拡張工事着工
	9	こんにやく火力乾燥工場完成
	10.1	こんにやく組合事務所新築
	11.3	統合中学校校舎落成（東・西）
		農業構造改善事業開始
昭和44年	4.10	妙義・荒船・佐久高原国定公園指定
	8.5	下仁田町産業振興委員会発足
昭和45年	3.1	統合中学校屋内運動場完成
	5.22	中央公民館完成
	7	東中学校プール完成
	9	鐺川土地改良青倉ゲート完成
	10.21	緑ヶ丘住宅団地完成
昭和46年	3.31	ゴミ焼却場新設
	4.25	町長改選（今井七五三次）
		富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合設立
	11.3	下仁田町史編纂発行
昭和47年	1.31	商工会館新築
	3.31	妙義有料道路開通
	3	下仁田小学校校舎新築
	3	下仁田町総合計画策定
	4.1	広域常備消防化
	10.3	農業振興地域指定

昭和 48 年	4	馬山小学校・西中学校プール完成
	10.10	広域基幹林道七久保橋倉線着工
昭和 49 年	4.1	甘楽西部環境衛生施設組合設立
	4.27	青倉児童館完成
	6.11	西部社会福祉センターオープン
	11.18	役場新庁舎落成



(旧東野牧小)



(旧小坂小)

昭和 50 年代

町営住宅、上水道など、生活環境整備が進む。

昭和 50 年	4.27	町長改選 (神戸半三)
	6.20	ガス供給所タンク完成
昭和 51 年	4.1	小坂簡易水道完成
昭和 52 年		こんにやく価格大暴落
		妙義山に 1 万 2 千本の桜を植栽
昭和 53 年	1.1	下仁田厚生病院公立となる
	4.5	国道内山峠一部開通
	12.15	本宿診療所完成
		西牧南小学校屋内運動場完成
昭和 54 年	3	町営住宅しらかば団地完成
	7.13	農村定住事業指定
	10.12	馬山小学校校舎完成
		下仁田保育園完成
昭和 55 年	3.3	西牧小学校屋内運動場完成
	3.25	ふるさとセンター完成

		下仁田保育園完成
昭和 56 年	2.20	青倉簡易水道新設工事完成
	3.3	小坂小学校屋内運動場完成
	3.14	下仁田幼稚園園舎完成
	3	土谷沢分校閉校
	5.8	関越自動車道上越線（藤岡～松井田間）路線の発表
	7.19	町営宿泊施設栗山荘オープン
	10.29	東部大橋開通
	10	下小坂大橋完成
	11.30	西部簡易水道新設工事完成
昭和 57 年	2.10	西牧小学校新校舎完成
	3.29	関越自動車道上越線（松井田～佐久間）路線の発表
	4.8	町営バス運行開始（青倉・馬山）
	5	第三期山村振興事業認定
	6.19	上水道第五次拡張事業完成
	10.31	生産物直売所完成
昭和 58 年	3.19	学校給食共同調理場完成
	3	町営住宅吉崎団地完成
	4.1	さくらの里オープン
	4.24	町長改選（青木茂雄）
	4	下仁田消防署完成
	7.15	新林業構造改善事業認定
	12.10	西牧多目的集会所完成
昭和 59 年	1.31	青倉小学校屋内運動場完成
	8.7	不通橋完成
	11.28	新農村定住事業指定

(さくらの里)



昭和60年～平成6年

上信越自動車道開通。文化ホールやふれあい学習センターができる。

昭和60年	1.24	代行林道中之岳線完成
	2.22	小坂小学校校舎完成
	3.30	町営吉崎テニスコート完成
	4.1	小坂三小学校統合
	10.12	下仁田町の花（桜）、木（杉）、鳥（うぐいす）指定
		下仁田町民憲章制定
昭和61年		下仁田警察署完成
	2.25	かぶら保育園完成
	3.24	下河原グラウンド拡張工事完成
	3.25	ゴミ焼却場（焼却炉棟）完成
	3.30	町長改選（小井土潑太郎）
	3.31	妙義有料道路無料開放
	4.1	西牧三小学校統合
	5.1	さくらの里きのご館開所
	7.28	下仁田小学校プール完成
		国道254号線馬山バイパス着工
昭和62年		過疎山村地域基幹道路（県代行）若宮一蒔田線着工
	2.28	西牧小学校屋内運動場完成
	4.24	下仁田町文化ホール完成
	7.30	矢川コミュニティセンター夜間照明施設完成
昭和63年	11.10	こんにゃく乾燥工場完成
	2.29	馬山小学校屋内運動場完成
	3.19	町営住宅東団地完成
	3.25	下仁田町農協こんにゃく加工場完成
	4.24	さくらの里野外ステージ完成
	4.27	町営迷路オープン
	6.13	西牧小学校プール着工
10	幼児健診でむし歯予防のためのフッ素塗布開始	
平成元年	8.9	国道254号内山道路全線開通
	4.1	防災行政無線を導入

平成 2 年	5.23	もみじライン植栽開始
	7.2	青倉小学校新校舎落成
	9.2	サン・スポーツランド下仁田完成
平成 3 年	10.1	町営バス運行開始（小坂・西牧）
平成 4 年	3.30	林業総合センター完成
	10.16	国道 254 号馬山バイパス開通
平成 5 年	3.27	上信越自動車道（藤岡～佐久間）開通
	3.30	下小坂グラウンド完成
	3	道平川ダム完成（荒船湖）
		保育園でのむし歯予防のための集団フッ素洗口開始
平成 6 年	3.30	町長改選（神戸文夫）
	5.24	ふれあいセンター完成



(下仁田 I C)



平成7年～16年

ほたる山公園、道の駅しもにたが完成。

平成7年	1.4	南野牧で温泉ボーリング開始
	3.31	農村公園完成
	6	石渕住宅団地分譲
	8.1	“下仁田の水”を製造販売開始
	11.7	火葬場火葬炉全面改修
平成8年	2	下仁田南牧クリーンセンター完成
	5.8	上信越自動車道Ⅱ期線工事着工
	10.8	老人保健法による保険事業推進に対し表彰される(厚生大臣)
	11.15	体験交流センター(荒船の湯)建設着工
	12.25	下仁田町活性化センター完成
平成9年	3.2	グリーンヒルかぶら住宅団地分譲開始
	8.3	西下仁田温泉荒船の湯営業開始
平成10年	4.23	新合之瀬橋開通
	9	下仁田駅駐輪場整備
平成11年	3	林道御場山線完成
	4.19	下仁田第1ニュータウン分譲開始
	4.25	林道奥山六車線西平橋完成
	5.10	上信越自動車道八風山トンネル貫通
	6.5	下仁田町自然史館開館(下仁田町自然学校活動を始める)
	9	下仁田駅関東の駅百選に選ばれる
平成12年	2	小中学生対象にむし歯予防のための家庭でのフッ素洗口開始
	3.20	矢川コミュニティセンター完成
	5.1	上水道宮畑浄水場完成
	5.1	上馬山・馬山東部・杣瀬各簡易水道が上水道に統合
平成13年	2.1	ゴミ分別収集開始
	3.27	平成橋開通
	3	最終処分場「クリーンポケット」完成

	4.1	ほたる山公園オープン
	4.1	財務会計システム導入
平成 14 年	3	ゴミ焼却場全面改修
	3.30	町長改選（金井康行）
	12.5	第 12 回群馬県歯科保健大会において歯科保健賞受賞 （（社）群馬県歯科医師会会長）
	12.16	新明治橋開通
平成 15 年	3	資源化施設「リサイクルセンター」完成
	11	下仁田中学校校舎落成
	12.6	道の駅「しもにた」オープン
	12	上信越自動車道Ⅱ期線工事完成
平成 16 年	4.1	東中学校と西中学校が下仁田中学校に統合
	4.1	地域インターネット整備事業
	12.5	町長改選(岡田常夫)



(荒船の湯)



(道の駅しもにた)

平成 17 年～ 23 年

日本ジオパーク認定

平成 17 年	3.31	町立下仁田保育園閉園、同年 4 月 1 日社会福祉法人青倉会に移管
	7.24	むし歯予防のためのフロリデーション(水道水フッ素濃度適正化) モデル装置完成
平成 19 年	1.30	世界遺産暫定リストに登載「富岡製糸場と絹産業遺産群」に「荒船風穴」「上野鉄道関連施設(鬼ヶ沢橋梁・下仁田倉庫(株) 赤レンガ倉庫)」
	7.21	「こんにゃく手作り体験道場」完成使用開始
平成 20 年	12.5	町長改選(金井康行)

平成 21 年	4.1	青倉小学校が下仁田小学校に編入統合
平成 22 年	1.1	ジオパーク下仁田協議会条例施行
	2.22	「荒船風穴」、東谷風穴と共に国指定史跡となる
	3.2	第 1 回ジオパーク下仁田協議会が開催され、本格的な活動が始まる
	3.31	町立かぶら保育園閉園
	4. 1	旧青倉小学校に下仁田町自然史館が移転
		ジオパーク推進室が新設され、事務所を下仁田町自然史館内に置く
7.21	「ふれあい学習センター」が「下仁田町公民館」に名称変更	
11.24	練馬区と災害時応援協定締結	
平成 23 年	3.7	下仁田中学校屋内運動場落成
	3.28	馬山多目的運動場「馬山多目的グラウンド」落成
	4.21	下仁田ジオパーク構想・日本ジオパーク申請書を協議会で承認
	4.25	日本ジオパーク申請書を提出
	5.26	下仁田小学校校舎（第 I 期）落成
	9.5	JGN 理事会において「下仁田ジオパーク」認定となる
	9.29	洞爺湖で開催された JGN 総会で認定証を受ける
	10.7	下仁田葱の日を 11 月 23 日（祝）と制定
	3.31	町立下仁田保育園閉園
平成 24 年	3.19	下仁田小学校校舎第 II 期落成
	4.1	町内 4 小学校統合
	4.1	しもにたバスを改正し運行開始